

宇宙アクションプランを策定しました！ ～スペースエントランス構想～

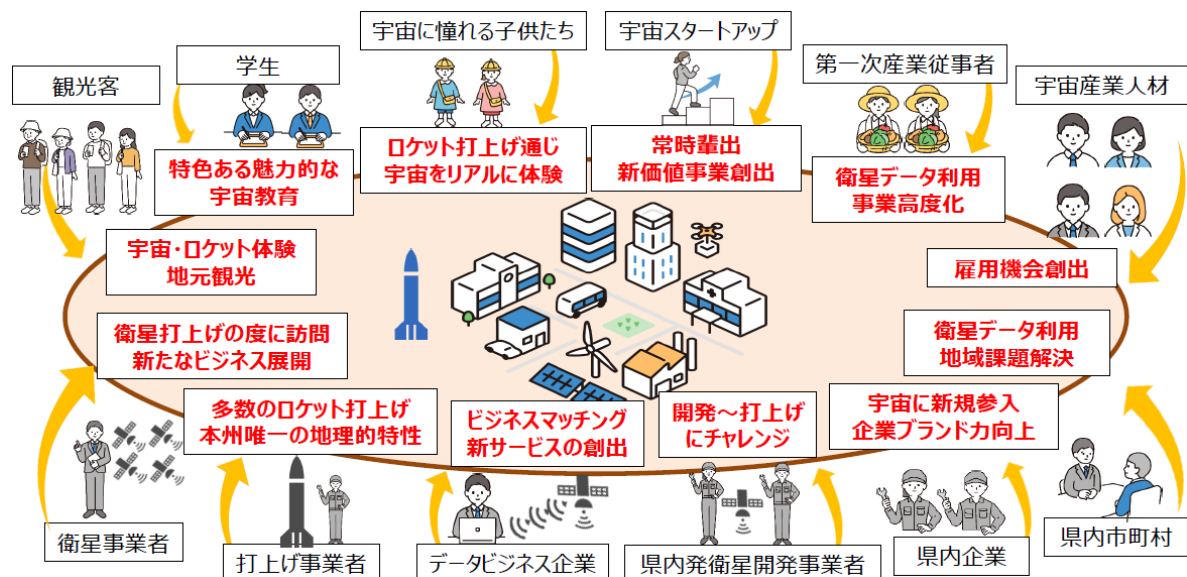
和歌山県では、将来の市場成長性やロケット発射場がある本県との親和性が高い宇宙産業を、本県の将来を担いうる成長産業の候補として位置づけています。この度、本県に宇宙産業を集積するための行動指針として、「宇宙アクションプラン」を紀南地域の10市町村と共同検討し、策定しました。

本アクションプランでは、本県が目指す“宇宙のまち”の将来像として、あらゆる企業や人が宇宙と関わり、夢を実現していく宇宙への玄関口『スペースエントランス』となることを掲げています。

また、宇宙のまちの実現に向けて、7つの重点推進テーマについて「2040年に本県が目指す姿」と「2030年頃までの中期的アクション」を設定しました。

今後は、本アクションプランに基づき、各市町村や事業者等の関係機関と連携しながら、本県が魅力ある宇宙のまち、『スペースエントランス』となることを目指して、取組みを進めてまいります。

【宇宙のまちとしての将来像】



(連絡先)

商工労働部 企業政策局 成長産業推進課 産業人材班
 担当：寺本、舩田
 電話：073-441-2355

和歌山県 宇宙アクションプラン ～スペースエントランス構想～

令和 7 年 8 月
和歌山県 商工労働部
成長産業推進課

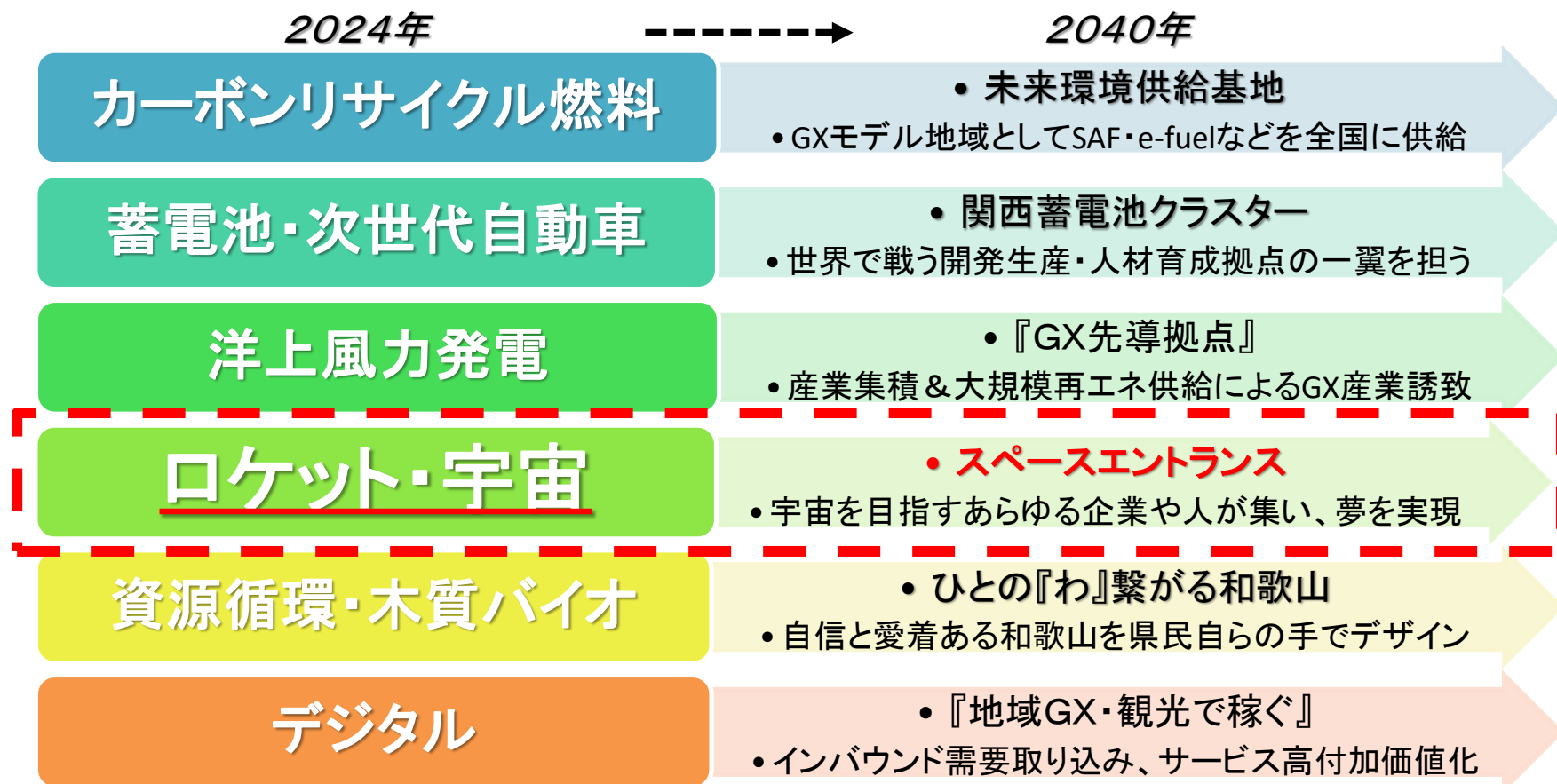
【目次】

第1章	背景	2
	▶ 『わかやま成長産業開拓ビジョン』の策定	3
	▶ 宇宙産業市場の拡大と和歌山県の現状	4
	▶ 和歌山県の宇宙産業集積の可能性と課題	5
第2章	将来像	6
	▶ 宇宙のまちとしての将来像	7
	▶ 紀南地域への宇宙産業集積に向けて①	8
	▶ 紀南地域への宇宙産業集積に向けて②	9
第3章	アクションプラン	10
	▶ 重点推進テーマ	11
	▶ 各テーマの整理のポイント	12
	① 宇宙輸送	13
	② 衛星製造	14
	③ 地上設備	15
	④ 衛星データ利活用	16
	⑤ 宇宙教育	17
	⑥ 産業人材	18
	⑦ 観光	19

第1章 背景

『わかやま成長産業開拓ビジョン』の策定

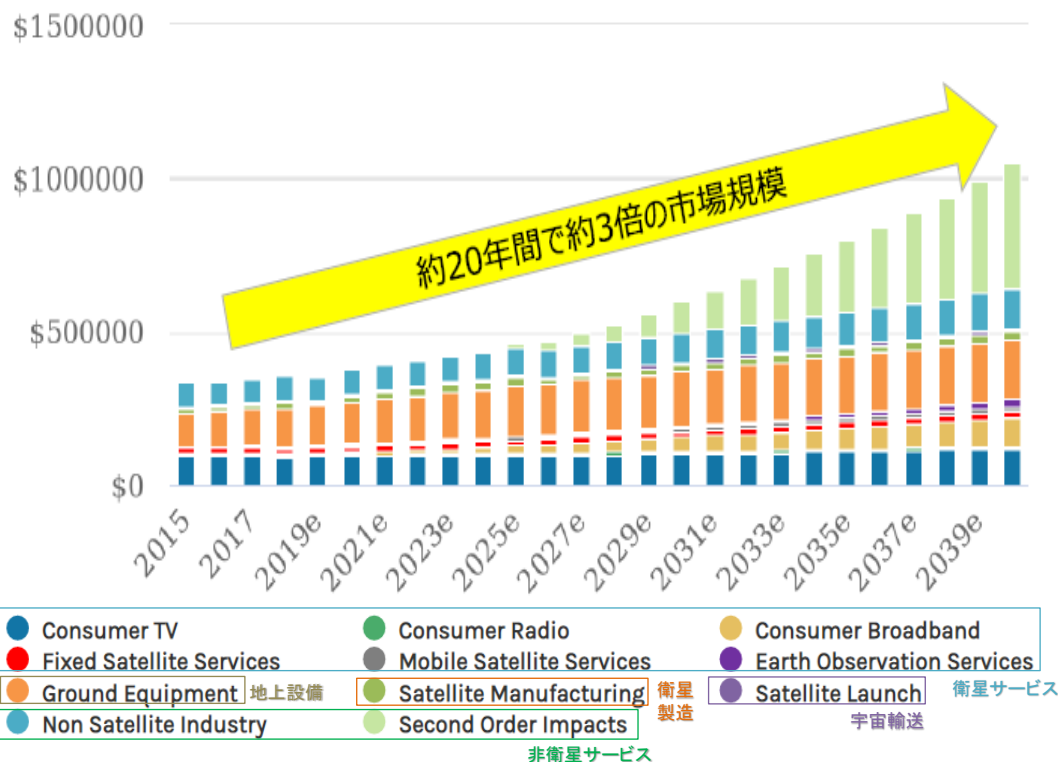
- 和歌山県は、2024年4月に『わかやま成長産業開拓ビジョン』を発表
- 世界的に今後の市場拡大が期待される成長産業のうち、和歌山に親和性があると見られる産業を明らかにし、将来の和歌山を担いうる産業と位置付け、集積の実現を目指す。民間ロケット事業を足掛かりに宇宙領域を拡大してきた和歌山において、宇宙産業もその一つ
- 宇宙産業の集積を実現するための具体的な行動に繋げることを目的に、アクションプランを策定する



宇宙産業市場の拡大と和歌山県の現状

- 宇宙産業の市場規模は急速に拡大。**2040年には、世界的に140兆円規模**にのぼるとされている
- 宇宙輸送、衛星製造、地上設備、衛星サービス、非衛星サービス等、**宇宙産業の内容は多岐**に渡る
- **串本町にロケット発射場「スペースポート紀伊」を有するスペースワン(株)は2024年3月にカイロスコケット初号機、同年12月に2号機の打上げを実施。**和歌山県において1回のロケット打上げがもたらす経済波及効果は約12億円（MURC試算）

世界的な宇宙産業市場規模の拡大

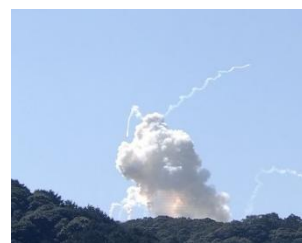


出典: <https://www.morganstanley.com/ideas/investing-in-space>

和歌山県の民間ロケット事業の躍進



初号機打上げの瞬間



初号機飛行中断の様子



2号機飛行の様子

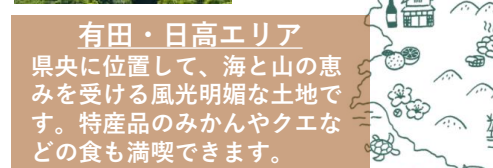
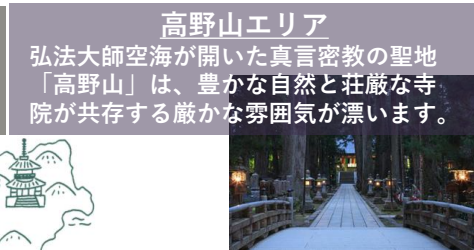
ロケット打上げがもたらす経済波及効果



出典: https://www.mufg.jp/dam/csr/report/other/space_kii_ja.pdf

和歌山県の宇宙産業集積の可能性と課題

- 宇宙事業を行うにあたり、**ロケット発射場があるという大きなメリットが和歌山県には存在**。加えて、ロケット発射場を有する他道県と比較し、和歌山県で宇宙事業を行うメリットが他にも存在
 - **三大都市圏からのアクセスの良さ**
紀南地域へは、東京から飛行機で約1時間、大阪から車で約2時間、名古屋から車で約3時間半
 - **観光資源が豊富で、それぞれのエリアの特性に応じた魅力が存在**
ロケット発射場近辺に、宿泊施設、美食、世界遺産、アクティビティが揃っているのは和歌山のみ
 - **ワーケーションの聖地、IT企業の集積**
全国に先駆け取組んだ白浜町が、ワーケーションの聖地と呼ばれ、県内にIT企業が集積している
- 他方、**県内全体への宇宙産業集積の道筋を見い出すため、全体的なプランニングが必要**



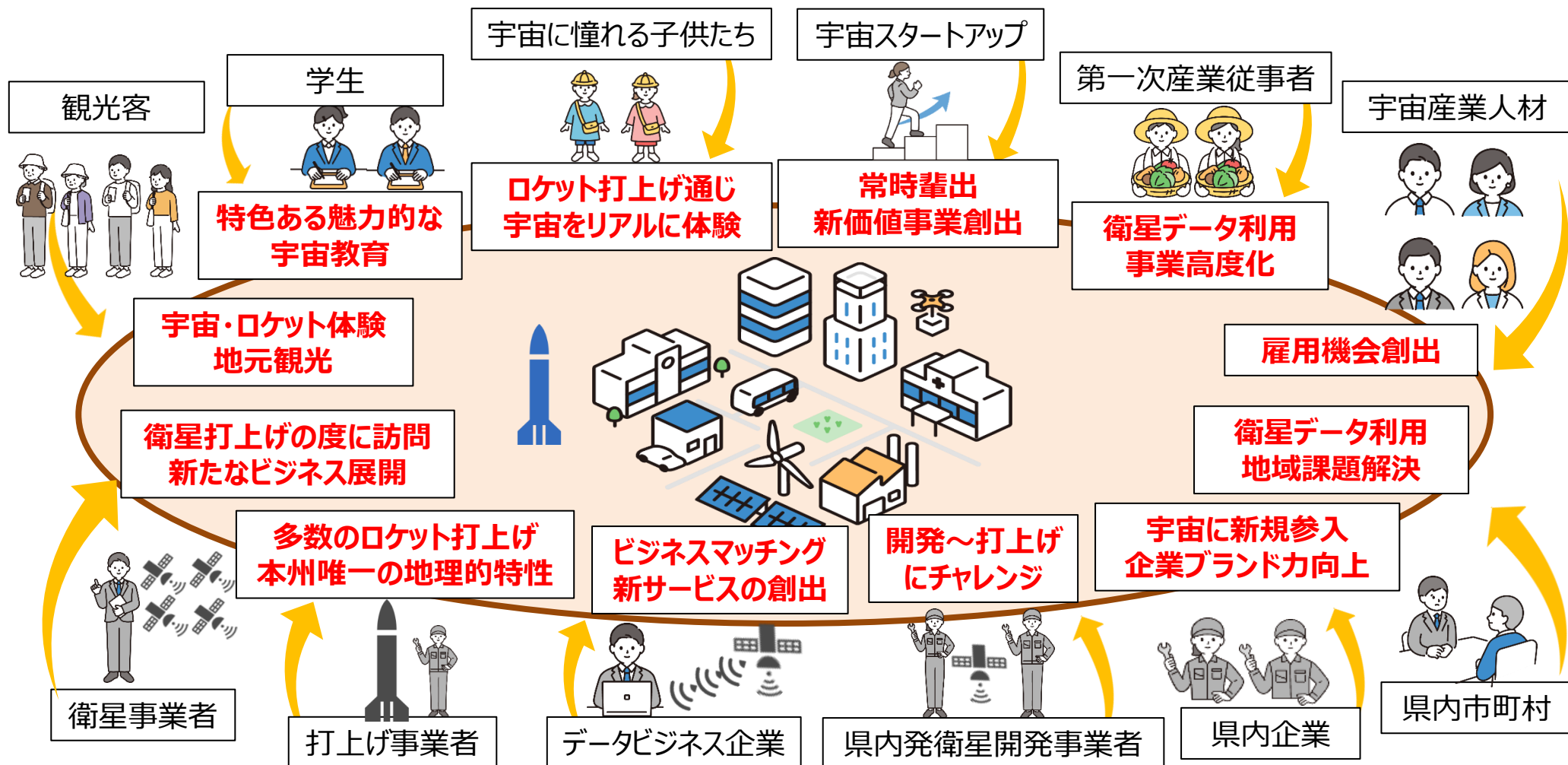
写真提供：公益社団法人和歌山県観光連盟

写真提供：
スペースポート紀伊周辺地域協議会

第2章 将来像

宇宙のまちとしての将来像

- 2040年に、和歌山県が宇宙のまちとして目指す姿は、**あらゆる企業や人が和歌山を通して宇宙と関わり、夢を実現していく未来**。和歌山県は各ステークホルダーにとって、**宇宙への玄関口『スペースエントランス』**となることを目指す



紀南地域への宇宙産業集積に向けて①

- 『スペースエントランス』実現への足掛かりとして、ロケット発射場を有する紀南地域（10市町村）において先行的に、**各市町村の特色を踏まえた宇宙産業集積について共同検討**を実施

市町村	概要	
田辺市	人口約6.7万人。柑橘類や梅等の農業や熊野古道など世界遺産を有する観光業が主要産業。 紀南地域唯一の工業高校が立地。自然豊かな環境を活かしたサテライトオフィスで企業誘致に取組む。	
白浜町	人口約1.9万人。主要産業は白浜温泉や千畳敷、テーマパーク等を有する観光業。 県内唯一の空港（南紀白浜空港）が立地。サテライトオフィスが充実し、ワーケーション利用やIT企業の進出が増加。	
上富田町	人口約1.5万人。農業と中小製造業が盛んで、スポーツ合宿が盛んで全国から多くのスポーツチームが訪問。既存産業の活性化や 工業団地を活用した企業誘致に注力 。子育て支援が充実し、人口流入傾向。	
すさみ町	人口約3.3千人。伝統的な「ケンケン漁」によるカツオ漁が盛んで農林水産業が主要産業。 キャンプ施設が充実し、アウトドア体験が魅力。	
新宮市	人口約2.6万人。熊野地方の商圏中心地で商業が主要産業。 当地方唯一の外貿港湾、新宮港が物流とクルーズ寄港の拠点として立地。質の高い銘菓や世界遺産「熊野速玉大社」等の観光資源を活かした観光業を推進。	
那智勝浦町	人口約1.3万人。生マグロや世界遺産「那智の滝」等を有しており、漁業や観光業が主要産業。「 スペースポート紀伊 」を契機に、 ロケット打上げ応援イベントの実施 や「宇宙・ロケット打上げ応援アンバサダー」として「宇宙なんちゃら こてつくん」を任命する等、 宇宙まちづくりを推進。	
太地町	人口約2.8千人。 捕鯨の伝統を持つ漁業 とくじらの博物館等の観光業が主要産業。子育て支援が充実し、「ひとにやさしいまち」を推進。	
古座川町	人口約2.3千人。主要産業は林業。高さ約100m・幅約500mの一枚岩を筆頭に、 自然が豊かでキャンプ等のアウトドア体験が魅力。	
北山村	人口約4百人。全国唯一の「飛び地」であり、 特産の柑橘「じゃばら」 を中心とした農業が主要産業。また、「 観光筏下り 」は地域振興の柱。	
串本町	人口約1.4万人。カツオ漁の漁業や熊野古道、南紀熊野ジオパークなど自然資源が豊富で観光業が主要産業。「 スペースポート紀伊 」が立地し、 新たに宇宙産業を核とした地域活性化を推進。	



紀南地域への宇宙産業集積に向けて②

- 共同検討の結果、7つの重点推進テーマを軸に下記のとおり各市町村の産業集積の方針を示す
- 県は全体の最適化を目指し、各市町村の伴走支援を行うとともに、地域全体での産業集積を推進

重点推進テーマ

- | | |
|------------|--------|
| ①:宇宙輸送 | ⑤:宇宙教育 |
| ②:衛星製造 | ⑥:産業人材 |
| ③:地上設備 | ⑦:観光 |
| ④:衛星データ利活用 | |

市町村	方針	市町村	方針
田辺市	①②③市内企業の宇宙産業参入推進、サテライトITオフィス活用推進 ④熊野古道状況把握における活用 ⑤地元学生に対する宇宙教育の推進 ⑥県立田辺工業高校での宇宙人材育成 ⑦宇宙×歴史文化の推進、教育旅行でのコンテンツ活用等	新宮市	①②輸送サプライチェーン及び海外衛星輸入に資する新宮港の活用 ①②④企業誘致 ⑤地元学生に対する宇宙教育の推進 ⑥地元企業等の宇宙関連スキル習得促進 ⑦ロケット打上げ周遊観光の促進
白浜町	①旧白浜空港跡地及び現南紀白浜空港の活用推進 ②③企業誘致 ④観光地活性化に資する新たなデータ利活用の創出、町内企業の宇宙産業参入推進 ⑦宇宙関連需要を踏まえた関東・東海圏等からの誘客促進	那智勝浦町	①②③町内企業の宇宙産業参入推進、企業誘致 ④農林水産業や防災対策への活用 ⑤地元学生の宇宙教育の推進、宇宙関連企業との交流会創出 ⑥地元企業等の宇宙関連スキル習得促進 ⑦ロケット見学場運営、宇宙関連需要を踏まえた宿泊施設の増設
上富田町	①輸送サプライチェーンに資する工業団地の活用 ②町内企業の宇宙産業参入推進、衛星製造に資する工業団地の活用 ③環境試験等に資する工業用地の活用	太地町	④海洋状況把握への活用 ⑦宇宙×くじらの町の推進、ロケット見学場運営
すさみ町	①②町内企業の宇宙産業参入推進、企業誘致 ③環境試験等に資する町有地及び民有地の活用 ⑦宇宙関連需要を踏まえた滞在型宿泊施設の活用、宇宙×地域資源のコラボ商品の開発	古座川町	⑤地元学生の宇宙教育の推進 ⑦宇宙関連需要を踏まえた滞在型宿泊施設の活用、宇宙×自然の推進
		北山村	⑦宇宙×じゃばら等地域製品の推進、ロケット打上げ周遊観光の促進
		串本町	①輸送サプライチェーンに資する射場周辺用地の活用 ②衛星事業者の長期滞在施設の提供 ③町内企業の宇宙産業参入推進、射場周辺用地への関連施設の誘致 ④農林水産業や防災対策への活用 ⑤地元学生の宇宙教育の推進 ⑥地元企業等の宇宙関連スキル習得促進 ⑦ロケット見学場及び宇宙関連施設運営、宇宙関係者向け宿泊施設の誘致

第3章 アクションプラン

重点推進テーマ

- 和歌山県においては、民間ロケット事業を軸に、今後も**宇宙輸送**を重点推進していく。加えて、多岐に渡る宇宙産業の集積や地域ブランドの確立に向け、ハードでは**衛星製造**、**地上設備**、ソフトでは**衛星データ利活用**、また、**宇宙教育**、**産業人材**や元来の強みである**観光**についても宇宙と関連させ推進していくこととし、3本柱で7つの重点推進テーマを設定

ハード	① 宇宙輸送	多様な民間ロケット事業が活況になる中、県内企業の宇宙産業への参入や県外企業の進出、射場関連設備の拡充等により輸送サプライチェーンを構築。
	② 衛星製造	県外企業の進出の他、県内企業が県民衛星プロジェクト等で技術力が向上し、宇宙産業に参入。来県する衛星事業者の再訪に繋がる滞在環境を整備。
	③ 地上設備	ロケット・衛星運用や宇宙機器の検証・評価に必要な施設や設備が充実し、県内外の事業者による設備利用を契機としたビジネス機会を創出。
ソフト	④ 衛星データ利活用	県内にベンダーが多数存在し、多種多様な地域課題の解決及び既存産業の高度化に貢献するとともに、国内外の市場を獲得する企業を輩出。
人材・観光	⑤ 宇宙教育	児童・学生が宇宙に関する多くの学習・体験機会を享受し、将来にわたり宇宙分野に関心を持ち続け、地域の産業振興やイノベーション創出を牽引。
	⑥ 産業人材	工業高校・高等教育機関や訓練施設でのデータ分析等の宇宙関連技術・ノウハウの習得により、宇宙産業を支える産業人材を安定的に輩出。
	⑦ 観光	ロケット打上げや宇宙関連施設、宇宙商品等の観光資源や施設が充実し、国内外に宇宙×観光＝和歌山と広く認知され、新たな地域ブランドが確立。

各テーマの整理のポイント

- **和歌山県の目指す姿（2040年）**

宇宙産業は急速に拡大しており、モルガンスタンレーによると2040年に世界で140兆円規模となる予測

県政の指針となる和歌山県新総合計画の「2040年にめざす姿」に、地域特性や地理的条件と親和性の高い成長産業である“宇宙ビジネス”の産業レベルの集積を位置付ける予定

上記より、本アクションプランにおいて、長期的に目指す姿の時点を2040年に設定

- **中期的アクション（2030年頃）**

日本では宇宙基本計画を掲げ、2030年代早期に8兆円規模とする計画

本アクションプランにおいて、中期的アクションを実施する時点を2030年頃に設定

- **政府の方針**

2025年3月時点で公表されている政府の方針を抜粋して記載

- **企業ニーズ及び課題、有識者意見**

本アクションプランの検討に際し、企業のニーズ及び課題等の把握のため、企業や有識者へヒアリングを実施

① 宇宙輸送

【和歌山県の目指す姿（2040年）】

- ① 安定的なロケットの高頻度打上げが実現し、ロケット事業者のサプライヤの部品・燃料工場が県内に立地
- ② 県内事業者がロケット事業者のサプライヤとなり、県内に輸送サプライチェーンが構築され主要産業に成長

【中期的アクション（2030年頃）】

- ① 安定的なロケットの高頻度打上げの実現のために、射場及びその周辺インフラの整備を促進
- ② 県内事業者の宇宙産業参入促進に資するセミナーやワークショップ、マッチングイベント等を実施
- ③ 県外に製造拠点を構えるサプライヤの部品・燃料工場を誘致
- ④ 県外事業者の県内移転に必要な条件及び事業者ニーズを満たす適地を整理するポテンシャル調査を実施
- ⑤ 宇宙事業者の受入れ体制を整えるべく、自治体・地元団体等に対して意識醸成を図る

【（参考）政府方針】

1. ロケットの高頻度打上げ

- 2020年代後半には、高頻度な打上げとより大きな輸送能力、より安価な打上げ価格を実現する宇宙輸送システムを、基幹ロケットと民間ロケットを通じて、我が国全体で構築する
出典：内閣府「宇宙基本計画」
- 2030年代前半までに、基幹ロケット及び民間ロケットの国内打上げ能力を年間30件程度確保

2. サプライチェーンの強化

出典：内閣府「宇宙戦略基金基本方針」

- 衛星の量産やロケット打上げの高頻度化等を可能とする「日本における産業基盤の強化」について、ハード・ソフトの両面から取り組んでいく
出典：経済産業省「宇宙産業基盤の強化に向けた方向性」

② 衛星製造

【和歌山県の目指す姿（2040年）】

- ① 衛星部品・コンポーネントを製造する企業が多数存在し、県内外の様々な衛星メーカーに供給
- ② 県内発の衛星メーカーによる小型衛星コンステレーションが構築され、県民の生活を支える企業が存在

【中期的アクション（2030年頃）】

- ① 県内事業者の宇宙産業参入促進に資するセミナーやワークショップ、マッチングイベント等を実施
- ② 衛星開発の実践の場として県民衛星プロジェクトを実施し、衛星開発の経験・ノウハウを蓄積
- ③ 具体的なビジネスモデルを想定した小型衛星コンステレーション構築に必要な体制・設備等の検討
- ④ 県外事業者の県内移転に必要な条件及び事業者ニーズを満たす適地を整理するポテンシャル調査を実施
- ⑤ 打上げ前作業で来県する衛星事業者に対して、再訪意向の醸成に繋がる良好な滞在環境を整備

【（参考）政府方針】

1. コンステレーション構築

- 通信衛星コンステレーションや観測衛星コンステレーション等、商業衛星コンステレーション構築の早期実現に向けた民間企業による技術開発を推進する
出典：内閣府「宇宙基本計画工程表(令和6年度改訂)のポイント」
- 2030 年代早期までに、国内の民間企業等による衛星システムを 5 件以上構築。そのための産業基盤を国内に構築し自立性及び自律性を確保するとともに、革新的な衛星基盤技術の獲得により我が国の国際競争力を底上げする
出典：内閣府「宇宙戦略基金基本方針」
- 比較的低コストな衛星の複数運用により、高速、大容量、高頻度な通信・観測サービスの提供を可能とする衛星コンステレーションは、経済社会や安全保障の基盤として成長を続ける
出典：経済産業省「宇宙産業における今後の取組の方向性について」

③ 地上設備

【和歌山県の目指す姿（2040年）】

- ① 多数の県内外の衛星事業者が、環境試験設備を利用し、新たなビジネス機会を創出
- ② 県内に高機能な地上局インフラが整備され、多くの国内外の衛星事業者が地上局を利用
- ③ 地上局設備を製造する県内企業が、受託製造・保守等で県内外で活躍

【中期的アクション（2030年頃）】

- ① 環境試験設備の設置に必要な条件及び事業者ニーズを満たす適地を整理するポテンシャル調査を実施
- ② 多数の衛星事業者が利用可能な環境試験設備を整備
- ③ 国内外の衛星事業者に利用される地上局インフラの条件や可能性を探るポテンシャル調査を実施
- ④ 地上局インフラの高度化及び事業者支援を通じ、宇宙関連産業を集積
- ⑤ 地上局関連装置の受託製造・保守等を契機とした県内企業の宇宙産業参入の促進

【（参考）政府方針】

1. 試験環境の整備

- 衛星開発・製造が急増する中で、環境試験機会のひっ迫による開発・製造期間の長期化が課題。放射線試験等の環境試験の効率化技術等の環境整備を進めるとともに、民生品利用や非宇宙事業者の参入障壁となっている品質要求や試験基準の合理化・多様化も必要ではないか

出典：経済産業省「宇宙産業における今後の取組の方向性について」

2. 地上局の高度化

- 衛星コンステレーションの構築や衛星サービスの多様化により、個々の衛星の運用や地上局の構築に関して一層の自動化や効率化が求められている。民生・安全保障の両分野において、衛星の運用自動化や地上局ネットワーク仮想化といった、地上システム基盤技術の開発が必要である

出典：内閣府「宇宙戦略基金基本方針」

④ 衛星データ利活用

【和歌山県の目指す姿（2040年）】

- ① 県内に衛星データをビジネスとするベンダーが多数存在し、衛星データによる多種多様な課題解決及び既存産業の更なる高度化・効率化が実現
- ② 革新的なサービスを有し、国際市場を獲得する県内企業を輩出
- ③ 県内の自治体においても、衛星データを活用した行政サービスの効率化が進む

【中期的アクション（2030年頃）】

- ① 県内ベンダーの宇宙産業参入促進に資するセミナーやワークショップ、マッチングイベント等を実施
- ② 衛星データの解析等の技術・経験を蓄積するために、県内ベンダーの県民衛星プロジェクトを促進
- ③ 県外企業誘致のために、サテライトオフィスや衛星データ利活用実証フィールド等を提供
- ④ 県内事業者・自治体ニーズの課題解決に資する衛星データ利活用のポテンシャル調査を実施
- ⑤ 自治体向けに課題解決に向けた衛星データ利活用のセミナーやワークショップ等を実施

【（参考）政府方針】

1. 衛星データ利活用の促進

- 衛星利用による宇宙ソリューションビジネスの海外展開強化や、衛星データの利用拡大、担い手の拡充等を図っていく
出典：内閣府「宇宙基本計画」
- 衛星データ（地球観測、測位、通信）を用いたサービス提供は、世界の経済成長の原動力。国際競争が激化する中、早期にその市場獲得に向けた取組に着手しなければ、成長し続ける宇宙市場獲得の機会を失うばかりか、国内の様々な産業の成長の原動力や社会課題の解決が、海外システムへの依存を深めることになる
出典：経済産業省「宇宙産業における今後の取組の方向性について」

⑤ 宇宙教育

【和歌山県の目指す姿（2040年）】

- ① 宇宙を契機に地域への愛着や誇りが醸成され、学生の県外への流出抑制及び県外からの流入促進
- ② 宇宙産業を単なる憧れの対象としてではなく、身近で現実的な進路選択の一つとして捉えられ、県内の児童・学生が将来なりたい職業の上位に宇宙産業が位置付けられる
- ③ 児童・学生が宇宙に関する多くの学習・体験機会を享受し、将来にわたり宇宙分野に関心を持ち続け、地域の産業振興やイノベーション創出を牽引

【中期的アクション（2030年頃）】

- ① 県内の児童・学生に対して、宇宙の学び・体験を提供することで機運醸成を図る
- ② 串本古座高校の学生に対して、宇宙を契機とした県外学校との交流及び宇宙関連施設の視察、宇宙産業での短期インターンシップの提供

【（参考）政府方針】

1. 人材育成

- 将来の宇宙分野の発展を支える次世代人材の育成等に関しては、大学を始めとする教育機関においては、最先端かつ実践的な研究開発活動への大学生や高専生などの参加機会（日本実験棟「きぼう」での宇宙実験、超小型衛星の開発・実証、観測ロケットの開発・運用など）の提供、JAXAの資金供給機能の強化等による研究の充実等を通じて、先端・基盤研究を担う大学等における人材育成への支援等を強化する
出典：内閣府「宇宙基本計画」
- 多くの宇宙関連組織が人材不足をはじめとした緊急度の高い人的課題を抱えており、「他業界からの人材流入」と、「教育機関・業界内における宇宙人材の育成」が必要不可欠
出典：内閣府「宇宙スキル標準（試作版）取扱説明書」

⑥ 産業人材

【和歌山県の目指す姿（2040年）】

- ① 工業高校・高等教育機関から宇宙産業を支える多様な人材を安定的に輩出
- ② 他産業から宇宙産業への流動が常態化し、高度な技術者や専門家を輩出
- ③ 宇宙の知見を活かし、他産業との融合によってイノベーションを創出

【中期的アクション（2030年頃）】

- ① 現場人材育成のために、工業高校・高等教育機関、職業訓練校の生徒に対して、宇宙関連の教養・スキルの獲得に資するセミナーやワークショップ等を実施
- ② 工業高校・高等教育機関にて宇宙プロジェクトを通じたプロジェクトマネージャー等の高度人材育成
- ③ 宇宙産業人材創出を目的とした宇宙関連施設を整備するとともに、宇宙専門カリキュラムを構築
- ④ 宇宙人材マッチングを目的としたスペースキャリアフォーラムの実施

【（参考）政府方針】

1. 人的基盤の強化

- （前略）こうした技術の研究開発や実装の担い手として需要が拡大する宇宙人材を確保することは、衛星、宇宙科学・探査、宇宙輸送の分野に共通する課題である。そのため、宇宙機器の製造分野に加え、リモートセンシング等のデータ利用側を含めた民間事業者のニーズ等を継続的に把握しつつ、産学官における技術開発や教育・研修等を通じた高度な技術者の育成や、宇宙人材の流動化促進、他産業の人材の宇宙分野への流入促進を図ることが重要である
出典：内閣府「宇宙技術戦略（令和6年度改訂）」
- 多くの宇宙関連組織が人材不足をはじめとした緊急度の高い人的課題を抱えており、「他業界からの人材流入」と、「教育機関・業界内における宇宙人材の育成」が必要不可欠
出典：内閣府「宇宙スキル標準（試作版）取扱説明書」

⑦ 観光

【和歌山県の目指す姿（2040年）】

- ① ロケットの打上げが日常化し、宇宙が観光客の人気コンテンツの一つとして確立
- ② 宇宙関連施設・商品等の観光資源・施設が充実し、観光客の増加及び満足度に大きく寄与
- ③ 国内外に宇宙×観光＝和歌山と広く認知され、新たな地域ブランドが確立

【中期的アクション（2030年頃）】

- ① 紀南地域市町村を中心に、ロケット打上げを契機とした周遊観光促進による滞在期間の延長、教育旅行やツアー商品の増加
- ② 新たな観光コンテンツ造成のため、自治体や観光団体、事業者向けにセミナーやワークショップ等を実施
- ③ 宿泊施設や飲食店等、観光需要を支える新たな事業者の創出
- ④ V R 等を用いた宇宙の体験型施設の整備
- ⑤ 新たな地域ブランド確立に資する動画配信や S N S 等を活用した情報発信

【（参考）政府方針】

1. 地方創生、地域づくりの期待

- 宇宙港は、ロケットの打上げ拠点としてだけでなく、ロケット・宇宙機の帰還拠点として重要な役割を果たすとともに、周辺における観光・教育・体験、研究・創薬・材料などの様々な産業集積によって、新たな価値創造や地方創生を進める宇宙ビジネスのハブ拠点として期待される
出典：内閣府「宇宙技術戦略（令和6年度改訂）」
- 観光立国の持続可能な形での復活に向け、観光の質的向上を象徴する「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」の3つをキーワードに、持続可能な観光地域づくり、インバウンド回復、国内交流拡大の3つの戦略に取り組む
出典：観光庁「観光立国推進基本計画」

